

4 上伊那地域の発展方向

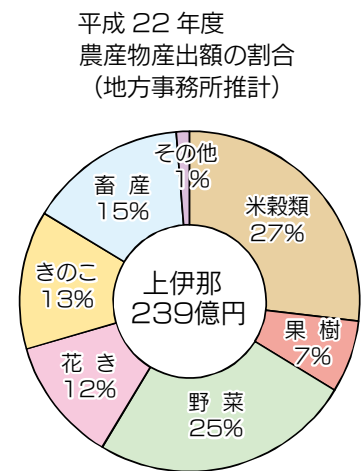
伊那市・駒ヶ根市・辰野町・箕輪町・飯島町
南箕輪村・中川村・宮田村

～二つのアルプスに抱かれて輝く上伊那の人・農業・農村～

地域農業・農村の概要

■ 農業・農村の特色 ■

- 上伊那地域は、天竜川河岸段丘地域と東部中山間地域に大別され、更に天竜川河岸段丘地域は平坦水田地帯と西部畑作地帯に分かれます。平坦水田地帯は、基盤整備や施設の近代化が進み、水稻を中心に野菜、花きの複合経営が行われ、西部畑作地帯は、畜産、野菜、果樹を中心とした農業経営が展開されています。
- 農業従事者の減少、生産者の高齢化、担い手不足等により、農業の生産力や農村集落の活力の低下が著しい中で、持続的な農業を維持発展するために集落営農組織づくりが全域で取り組まれ、地域ぐるみによる生産体制の整備が進んでいます。
- 消費者の食に対する安全・安心や環境に配慮した農産物生産に関心が高まってきています。
- 中山間地域では、担い手の高齢化等により耕作放棄地や野生鳥獣の被害発生も増加傾向にあり、農村集落の活力が低下してきています。
- 基幹的農業水利施設等は築造後、年数も経過して老朽化が進んでいることから、計画的に更新・改修整備を進める必要があります。



■ めざす将来ビジョン ■

- 二つのアルプスの豊かな自然環境に恵まれた立地条件を活かし、人・農業・農村が融合し、活力に満ちた競争力の高い農業が展開され、高品質で安全・安心な農畜産物が生産されています。
- 新規就農者や農業後継者等の意欲的な農業経営体が収益性の高い経営を実践し、定年帰農者や女性農業者など、多様な担い手が確保されて活動しています。
- 集落営農組織等の法人化が進み、地域ぐるみの合意形成に基づく農地の利用集積により、規模拡大や団地化が行われ、効率的な農業経営が営まれています。
- 野菜の重点品目である、白ねぎ、アスパラガス、ブロッコリーなどの生産拡大が進み、野菜の総合供給産地として発展しています。
- 新たな地域特産物である、小麦（ハナマンテン）、かき、くり、山ぶどう系ワインぶどう、ごま、とうがらし、アマランサス等の生産振興が図られ、農商工連携による6次産業化により付加価値の高い商品開発と販路拡大が進んでいます。
- 産地の維持を図るため、荒廃樹園地・空きハウス・空き畜舎などを有効に活用し、高齢化した農業者から新たな担い手に経営の継承が進んでいます。
- 地域ぐるみの共同活動により、農業の持つ多面的な機能の維持や農村コミュニティ活動が図られ、美しい農村環境と活力ある集落が維持されています。



重点的な取組方向

重点戦略1 新たな農業経営体の育成・確保

地域農業を支えてきた農業経営者の高齢化とともに農家人口も減少する中で、担い手不足により農業生産力の低下が懸念されています。また、今後の農業や集落の維持にも影響が心配されることから、地域農業を支える多様な担い手を育成・確保することが求められています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□ 40歳未満の新規就農者数 (単年度)	18人	21人
□ 新たな認定農業者数 (累計)	18人	50人

- #### 推進方策
- 上伊那独自のJAインターン制度、就農準備校及び里親研修などを活用した新規就農者の確保
 - 実践塾や各種セミナー等による新規就農者の育成
 - JAと連携した経営の複合化等を含む農業経営改善の支援
 - 農地の利用集積による規模拡大の推進
 - 上伊那地区新規就農促進連絡会議による関係機関との情報交換



【新規就農者激励会】

重点戦略2 集落営農組織の育成・確保

地域農業の維持発展のため、集落営農組織による生産体制が整備されてきましたが、構成メンバー等の高齢化による組織の脆弱化、土地利用型作物中心の経営展開が限界にきている等の課題もあります。今後は、集落営農組織の体質強化や経営の複合化等を進める必要があります。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□ 集落営農組織の法人数	9組織	22組織
□ 経営の複合化等多様な事業展開に取り組む集落営農組織数	4組織	12組織

- #### 推進方策
- 集落営農組織の法人化に向けた支援
 - 組織の担い手や優れたリーダーの育成
 - 園芸品目の導入による経営の複合化の推進
 - 法人化した組織に対する農産加工や直売等の多様な事業展開の支援
 - 規模拡大のため、集落での話し合いによる農地の利用集積の推進



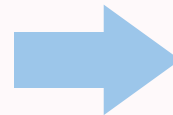
【集落営農組織での稲刈】

重点戦略3 重点推進品目を基幹とした野菜の生産振興

気象条件、立地条件及び組織とその労働力等を活かすことができる野菜（白ねぎ、アスパラガス、ブロッコリーなど）を重点推進品目として推進しています。今後も更に、軽量品目や新品目を加え一層の生産振興を図り、総合的な野菜供給産地として発展できるよう推進していく必要があります。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□白ねぎの栽培面積	49ha	70ha
□アスパラガスの栽培面積	70ha	75ha
□ブロッコリーの栽培面積	69ha	80ha



推進方策

- 集落営農組織や農業生産法人など、担い手組織を中心とした白ねぎの面積拡大
- 新植、改植の推進や単収の向上によるアスパラガスの生産拡大
- 定植機を利用したブロッコリーの省力化による生産拡大
- 作期の拡大・分散と品質の向上、作柄安定のための施設化の推進
- 重点品目を基幹とし、補完品目、軽量品目、新品目、加工・業務向け野菜等の生産と多面的販売による、総合的な野菜供給産地の推進



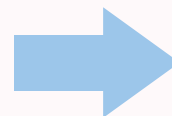
【アスパラガスの栽培】

重点戦略4 花き・果樹・畜産等の生産振興

花きではアルストロメリア・トルコギキョウ、果樹ではかき・くりの生産拡大が進んでいます。また、新植・改植によるりんご新わい化栽培の面積も徐々に増加してきています。一方、生産者の高齢化等により、荒廃樹園地や空きハウス・空き畜舎などが増加し、これらの有効活用が求められています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□トルコギキョウの栽培面積	9ha	10ha
□かきの栽培面積	35ha	45ha
□飼料用イネ等の栽培面積	25ha	160ha



推進方策

- 新品種の導入によるアルストロメリアの生産拡大
- トルコギキョウの秋出荷の生産拡大
- 新植・改植によるりんご新わい化栽培の面積拡大
- 遊休農地等を活用したかき・くりの面積拡大
- 高齢化した農業者から新たな担い手に経営の継承が円滑に進むような継承システムの構築
- 自給飼料生産を行う生産組織・個人の育成と面積拡大
- 耕畜・基盤連携による稲作産地体制の強化と経営の安定化支援



【トルコギキョウの栽培】



重点戦略5 地域特産物の生産振興と6次産業化の推進

上伊那地域では、小麦（ハナマンテン）、かき、くり、山ぶどう系ワインぶどう、ごま、とうがらし、アマランサス等が地域特産物として栽培されています。今後は更に、生産拡大や農商工連携等による商品開発・販路開拓を進め、特産品のブランド化を進めることが求められています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 6次産業化等による新たな商品化数（単年度）	1件	2件
<input type="checkbox"/> 六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	8件

推進方策

- 農商工連携等による商品開発、販路開拓
- 原料農産物の品質向上、生産拡大
- 商談会等の開催による認知度の向上と販路拡大
- 「おいしい信州ふード（風土）」をはじめとする地域特産物のPRとブランド化
- 消費拡大のための上伊那食べたい提案隊による地域農産物のメニュー提案
- 観光産業とタイアップした農産物の販路拡大



【小麦（ハナマンテン）の麺類】

重点戦略6 美しい農村環境と活力ある集落の維持

農業者の高齢化や担い手不足等により、耕作放棄地面積が増加傾向にあり、野生鳥獣による農作物への被害もなかなか減少しない状況にあります。美しい農村環境を維持するため、共同で野生鳥獣被害対策や環境保全対策に取り組むとともに、安全で快適な農村環境整備を計画的に推進する必要があります。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 野生鳥獣侵入防止柵の設置延長	161km	280km
<input type="checkbox"/> 多面的機能支払事業活動組織数	42組織	107組織

推進方策

- 集落の共同活動等による耕作放棄地発生防止対策の実施
- 上伊那鳥獣被害対策協議会による広域的な野生鳥獣被害防止対策への支援
- 侵入防止柵等の設置による野生鳥獣被害防止対策の実施
- 野生鳥獣の被害に遭いにくい作物の導入
- 美しい農村環境を維持するため、地域や集落で取り組む多面的機能支払事業の実施
- 農業水利施設等の長寿命化対策など農業農村整備事業の実施



【野生鳥獣侵入防止柵の設置】